

令和2年6月24日

学校法人三幸学園
大阪リゾートアンドスポーツ専門学校
校長 山本 稔 殿

学校関係者評価委員会
委員長 西鶴 和博

学校関係者評価委員会実施報告

2019年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 西鶴 和博 (ミズノスポーツサービス株式会社 事業開発推進部プロフェッサー)
- ② 濱田 和樹 (非営利法人日本トレーニング指導者協会 関西支部委員)
- ③ 西明 拓馬 (第15期卒業生 幼児活動研究会株式会社 大阪南支部支部長)
- ④ 齊藤 貴雄 (飛鳥未来高等学校大阪キャンパス 教頭)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2020年6月24日 (GoogleMeetにてWEB会議型式で実施)

3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2019年度 学校法人 三幸学園 大阪リゾートアンドスポーツ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：教務課長 永山 雄一

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 西鶴 和博

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

- ・社会で通用する人材育成(就職率・検定/資格取得率の向上・退学率の低減)
- ・教育目標の達成
- ・ICT教育の強化
- ・教職員のスキル・教育力向上に向けた研修の実施

② 学校関係者評価委員会コメント

特になし

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・学校の理念・目的・育成人材像は業界と連携し明確に設定されているが、全教員さらには生徒・保護者への理解・浸透度をさらに高めていくことが重要となる。

② 今後の改善方策

- ・定期的に全教員へ研修や会議を通して理解が深まるよう働きかける。
- ・保護者連携を強化し、より学校教育へ理解・協力いただける環境を作る。
- ・新型コロナウイルスの影響により業界全体でのニーズが変わる可能性があるので、情報を適切に把握し対応していく。

③ 特記事項

- ・業界ニーズを学ぶために、産学連携としてフィットネスクラブと提携し、業界の即戦力となる人材育成のためのカリキュラムを共同開発している。
- ・例年入学前に保護者説明会を実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から実施を見送った為、十分な説明が出来なかった。

④ 学校関係者評価委員会コメント

西鶴委員

会社の理念や方針、考え方などは研修などで伝えるだけでは浸透しない。今所属している会社では、毎週月曜日の朝礼時に唱和をしている。また、グループ会社としても2週間に1回、社長からのメッセージ動画(10分)を朝礼で流しており、会社の方針や考え方を全社員に浸透させている。学校でも取り組める内容だと思うので、ぜひ工夫をして取り組んでいただきたい。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

・スマートフォンを活用した授業ツールを導入しているが、まだ使いこなすことが出来ていない教員や生徒が多く、機能も活用しきれていない。また、初期設定や登録に時間がかかっている現状がある。

② 今後の改善方策

- ・メディア授業導入に伴い、教員や生徒も対応するなかで ICT に順応すると思われるが、適宜説明や研修を行い有効活用できるよう取り組んでいく。
- ・積極的に WEB 会議などを活用し、姉妹校との連携、情報の共有を行い、授業ツールの効果を最大化させる。
- ・活用度をさらに高める為に研修を実施する。

③ 特記事項

・HP にてシラバスの情報公開をし、生徒と保護者にも開示している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

西明委員

幼児体育の現場でも、希望者へ指導動画の映像提供やオンラインでの指導を取り入れているが、全員が担当しているわけではなく、限られたメンバーで実施している。学校においても場合によっては人を限定した対応で、質の担保を検討した方が良いのではないかと考える。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・資格合格率向上に向けた取り組みを行い前年比では合格率を向上できているが、更に合格率を高める必要がある。
- ・資格取得に向けた生徒の動機付けが不足している。

② 今後の改善方策

- ・指導体制を見直し、良い授業の進め方を共有・標準化をする為の資格対策会議を継続して実施する。
- ・企業や関連団体とより関係性を高め、業界の情報収集と、資格取得に対する動機づけへご協力を頂く。

③ 特記事項

- ・メディア授業がしっかりと機能するよう、常に PDCA サイクルを回していく必要がある。
- ・昨年度と比較すると主要な資格についての合格率は向上している

④ 学校関係者評価委員会コメント

濱田委員

試験範囲の問題を繰り返し実施すれば、合格率が上昇することは間違いないが、試験の為の勉強になっ

てしまつては本来の目的から外れてしまうのではないかと考える。知識だけでなくトレーナーとして通用する人材を育成するためには、自分から面白さや興味をもって自発的に学んでいく姿勢を伸ばしていくことが必要だと感じる。

齊藤委員

通信制の高校では、生徒自身が自走できる状態にもっていくために管理表を作成して使用している。担任は、計画を立て、計画に対してどうだったかを振り返りながら自分自身で単位の修得を管理できるようサポートしている。生徒が自走できる仕組みづくりも重要だと考える。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・入学前後での学校生活のイメージギャップの低減。
- ・資格合格率のさらなる向上。

② 今後の改善方策

- ・授業ガイダンスの導入と効果検証(今年度は新型コロナウイルスの影響で十分な効果検証が出来ない)
- ・資格取得の意味や意義を理解するために取得に向けての動機づけとともに、教科担当と協力し、模試の結果を共有することで、タイムリーに必要な対策をとっていく。
- ・オンデマンド教材などを活用し、予習復習の教材として活用
- ・退学者の分析(理由、時期、経緯)等の分析

③ 特記事項

- ・入学時に学校生活のモチベーションを図るアンケートを実施している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

濱田委員

学校に入学した後、興味があることが変わることもある。途中からでもコースや学科を変えられる仕組みがあれば自分の興味がある分野に進めることができるのではないかと考える。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・新型コロナウイルスが就職環境に及ぼす影響のリーサーチ
- ・スポーツトレーナー科や健康スポーツ科の卒業生向けの支援体制の強化。
- ・卒業生の為のキャリアアップセミナーや卒業生向け求人など情報開示はしているが、積極的に学校からアプローチはできていない。
- ・退学以前は個別面談や保護者連絡などができているが、退学後の状況確認は実施できていない。

② 今後の改善方策

- ・在校中に使用していた連絡アプリによる定期的な情報配信を実施。併せて卒業生SNSのさらなる認知と活用。
- ・卒業後教育のさらなる充実をはかる。

③ 特記事項

- ・担任による個人面談(最低でも年1回)、保護者への電話連絡(学期はじめ)を実施している。
- ・新型コロナウイルスによる影響に対する卒業生支援を実施(前払いクーポン買取制度)

④ 学校関係者評価委員会コメント

西明委員

卒業生として、卒業後に学校からの情報やお知らせを見たことがなく、発信されるルートもわからない。卒業生支援や、卒業生にとって有益な情報の発信と、発信自体のルートを周知していく必要があると考える。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

・生徒数増に対応した施設(座学・実技)のさらなる整備。

② 今後の改善方策

- ・実習巡回教員の増員と質向上の為の研修実施。
- ・年 1 回の避難訓練の継続。

③ 特記事項

- ・3号館の修繕の実施(マシンルーム拡張、アリーナへの鏡の設置)
- ・インターンシップ実習を任意での参加に変更(スポーツトレーナー科、スポーツインストラクター科 1年、健康スポーツ科 2年)
- ・メディア授業受講の為の Wifi の無償貸与

④ 学校関係者評価委員会コメント

西鶴委員

最近、中長期のインターンシップではなく、イベントなどに 1 日参加するようなインターンシップが増えていく。イベントなどは普段学校では学べない内容を学べるので、積極的に参加してほしい。また、採用の面でも、人柄を重視している会社は、実習は人柄を見ることができる機会として重要な要素だと考えている。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・学生募集活動教員の経験によって、教育成果の伝達レベルに差がある。
- ・入学前と入学後イメージのギャップがある。

② 今後の改善方策

- ・伝達内容や経験の差を最小限にできるよう教員研修を実施する。
- ・入学後のイメージを持たせる説明の徹底。

③ 特記事項

- ・新型コロナウイルスの影響によるオンラインオープンキャンパス／オンライン入試の実施
- ・在校生スタッフの研修を行い、参加者がよりイメージできるようなオープンキャンパスを実施。
- ・オープンキャンパスの保護者説明会に在校生スタッフを配置し、保護者にも理解していただく環境を作っている。
- ・学園オリジナルの学納金の分納制度

④ 学校関係者評価委員会コメント

齊藤委員

高校は、休校の影響で、転入学の問い合わせが減ってきている。募集に関しては、来年度以降影響があると想定している。オンラインでのオープンキャンパス等、状況にあわせて対応していく必要性を感じる。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・更なる法令遵守を推進。

② 今後の改善方策

- ・会議などを通し、全教職員に関係法令等の把握と法令遵守に対する啓蒙を継続的に進めていく。
- ・問題点への取り組みに関して、進捗状況を役職者・学科内で随時把握し、改善に努める。

③ 特記事項

- ・平成 27 年度自己評価より公開を開始。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

① 課題

・学校の施設を利用し、一部企業には活動の場を提供しているが、地域や一般の方に向けた講座が少ない。

② 今後の改善方策

・地域貢献につながる公開講座の実施を検討。

③ 特記事項

- ・学校の実技実習施設は、地域の方の水害時の避難場所に指定いただいている。
- ・ボランティア活動の依頼は多く、教育成果を発揮するいい機会となっている。また、生徒の活動実績が就職活動の際に成果として現れている。
- ・西中島地区のボランティア活動に積極的に参加し、地域貢献活動を実施している。
- ・ボランティアを授業単位として認定する「サービスラーニング演習」を導入した。
- ・本校実技施設を利用して生徒によるフィットネスクラブ運営を行う「総合演習」授業を実施している。
- ・西中島地区の清掃活動

④ 学校関係者評価委員会コメント

西鶴委員

現在、大阪のある地区のソフトボール協会の理事をしているが、協会は高齢化が進み、慢性的に人手不足の状況。そういった協会は若い人の力を借りたいと思っているが、どうアプローチしていいかわからないのが現状なので、地域スポーツの協会に連絡をすることでボランティアなどの話は進むのではないかと考える。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	
学内で適切な体制が整備されているか	

① 課題

② 今後の改善方策

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

西鶴委員

コロナ禍により、社会では様々な研修や会議を WEB 上で実施する傾向があるが、全てメディア化してしまうと人と人の関りが薄くなってしまわないかと懸念している。メディアを上手く使いつつ、学校という場ならではの対面での関りを大事にしていきたい。

令和元年6月28日

学校法人三幸学園
大阪リゾートアンドスポーツ専門学校
校長 徳 幸道 殿

学校関係者評価委員会
委員長 西鶴 和博

学校関係者評価委員会実施報告

平成30年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 西鶴 和博 (ミズノスポーツサービス株式会社 事業開発推進部プロフェッサー)
- ② 濱田 和樹 (特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会 近畿支部委員)
- ③ 西明 拓馬 (第15期卒業生)
- ④ 齊藤 貴雄 (学校法人三幸学園 飛鳥未来高等学校大阪キャンパス 教頭)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和元年6月11日 (会場 大阪リゾートアンドスポーツ専門学校 402教室)

3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2018年度 学校法人 三幸学園 大阪リゾートアンドスポーツ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 渡邊 慧

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 西鶴 和博

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

③ 前年度重点施策振り返り

- ・社会で通用する人材育成(就職率・検定/資格取得率の向上・退学率の低減)
- ・教育目標の達成
- ・産学連携活動の強化(企業と連携した授業展開・ラグビーW杯、オリンピックに向けた取り組み)
- ・教職員のスキル・教育力向上に向けた研修の実施

② 学校関係者評価委員会コメント

これからよりAIやICTなど時代が変わっていくが、人でしか出来ない部分がより求められていくので、不変的部分は大事にしてほしい。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- ・学校の理念・目的・育成人材像は業界と連携し明確に設定されているが、全教員さらには生徒・保護者への理解・浸透度をさらに高めていくことが重要となる。

② 今後の改善方策

- ・定期的に全教員へ研修や会議を通して理解が深まるよう働きかける。
- ・保護者連携を強化し、より学校教育へ理解・協力いただける環境を作る。

③ 特記事項

- ・業界ニーズを学ぶために、産学連携としてフィットネスクラブと提携し、業界の即戦力となる人材育成の為にカリキュラムを共同開発している。
- ・入学前に保護者向け学校説明・制度説明会を実施している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・唱和など、理解の浸透の為に工夫できることはあるのではないかと。
- ・理念に照らし合わせて常に物事を考えさせることで、良い点や改善点について役職年齢を問わず言える関係性を作ることが出来た事例もある。
- ・理念は興味や共感がなければ覚えないので、どうやったら興味を持てるのかも考えていく必要がある。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・新学生管理システムやスマートフォンを活用した授業ツールを導入しているが、まだ使いこなすことが出来ない教員が多く、機能も活用しきれていない。また、初期設定や登録に時間がかかっている現状がある。

② 今後の改善方策

- ・積極的に WEB 会議などを活用し姉妹校との連携、情報の共有を行い、授業ツールの効果を最大化させる。
- ・活用度をさらに高める為に研修を実施する。

③ 特記事項

- ・HP にてシラバスの情報公開をし、生徒と保護者にも開示している。
- ・教務事務職員を新たに 1 名配置し、事務の業務円滑化に努めている。
- ・ペーパーレス会議を実施し、情報システムの管理強化に努めている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ICTの導入は様々な企業でも最初は不便に感じるものだが、恐れず前向きに導入を進めていってほしい。
- ・全員が活用していけるよう、研修会などのフォローアップ体制も整備すべきではないか。
- ・すべてシステム化ではなく、その中でも人がしっかりと介入すべき点は見極めること。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・資格合格率向上に向けた教員配置はできているが指導体制(試験対策)の標準化はまだ図り切れていない。
- ・資格取得に向けた生徒の動機付けが不足している。

② 今後の改善方策

- ・指導体制を見直し、よい授業の進め方を共有・標準化する為の資格対策会議を継続して実施する。
- ・企業や関連団体とより関係性を高め、業界の情報収集と、資格取得に対する動機づけへのご協力を頂く。

③ 特記事項

- ・カリキュラム改訂とシラバスの情報公開による教育内容の可視化を実施している。
- ・教務力向上、資格取得、キャリア支援などの課題に対して全国でプロジェクトチームを設置する。
- ・SankoGate(独自アプリ)を導入し、生徒に対し授業動画や配布資料、事務連絡の配信を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・業界でもやり方を教える指導ではなく、考えさせる指導を大切にしているので、学校教育においても自発的に考え行動できる指導を大切にしてほしい。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・担任の商品力(業界の魅力、資格の価値)の理解向上。
- ・入学前後での学校生活のイメージギャップの低減。

② 今後の改善方策

- ・資格取得者、業界関係者による担任への研修の実施。
- ・退学防止のための講演会の開催(モチベーションの維持・向上)
- ・資格取得の意味や意義を理解するために取得に向けての動機づけとともに、教科担当と協力し、模試の結果を共有することで、タイムリーに必要な対策をとっていく。

③ 特記事項

- ・入学時に学校生活のモチベーションを図るアンケートを実施している。
- ・一人一人の出欠状況を共有し、教科担当や保護者との連携を強化している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・トレーナーの資格は国家資格ではないが、知識や技術を持つ大切な証明となるので、その意義やメリットをしっかりと伝えていってほしい。
- ・トレーナーは、知識・技術を持った職人肌の部分が大きいイメージがあるが、これからの時代は、マネジメントや営業力といった部分も非常に重要である。
- ・ゴールドenspportsイヤーズ後は、指導の対象として一般の方が主となってくる為、トレーナーもアスリートやチームだけでなく、一般の方に対応できるかどうか求められてくる。
- ・今後はシステムの活用能力、一般教養、トレーニング指導力の3要素が求められるのではないかと。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・スポーツトレーナー科や健康スポーツ科の卒業生向けの支援体制の強化。
- ・卒業生の為のキャリアアップセミナーや卒業生向け求人など情報開示はしているが、積極的に学校からアプローチはできていない。
- ・退学以前は個別面談や保護者連絡などができているが、退学後の状況確認は実施できていない。

② 今後の改善方策

- ・在校中に使用していた連絡アプリによる定期的な情報配信を実施。
併せて卒業生SNSのさらなる認知と活用。
- ・卒業後教育のさらなる充実を図る。

③ 特記事項

- ・担任による個人面談(最低でも年1回)、保護者への電話連絡(学期はじめ)を実施している。
- ・経済支援制度の継続。
- ・卒業生向けのスキルアップセミナーを年2回実施。
- ・関西の各高校に向けたキャリア教育支援プログラムの実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・飛鳥未来高等学校は10周年の同窓会を企画し、卒後の交流会を設けているので、参考にしていきたい。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・生徒数増に対応した施設(座学・実技)のさらなる整備。
- ・生徒数増による実習巡回の質の向上。

④ 今後の改善方策

- ・実習巡回教員の増員と質向上の為の研修実施。
- ・年1回の避難訓練の継続。

③ 特記事項

- ・1号館マシンルーム、2号館スタジオの増設を実施。
- ・1、2、3、4号館へのwifi設置により、よりIT機器等を使った授業を推進している。
- ・教職員に向けたCPR(第一次救命処置)の講習会を実施している。
- ・2019年度より全教室へ防犯ブザーを設置している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・生徒募集活動教員の経験によって、教育成果の伝達レベルに差がある。
- ・入学前と入学後イメージのギャップがある。

② 今後の改善方策

- ・伝達内容や経験の差を最小限にできるよう教員研修を実施する。
- ・入学後のイメージを持たせる説明の徹底。

③ 特記事項

- ・在校生スタッフの研修を行い、参加者がよりイメージできるようなオープンキャンパスを実施。
- ・オープンキャンパスの保護者説明会に在校生スタッフを配置し、保護者にも理解していただく環境を作っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

④ 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

⑤ 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

⑥ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・更なる法令遵守を推進。

② 今後の改善方策

- ・会議などを通し、全教職員に関係法令等の把握と法令遵守に対する啓蒙を継続的に進めていく。
- ・問題点への取り組みに関して、進捗状況を役職者・学科内で随時把握し、改善に努める。

③ 特記事項

- ・平成 27 年度自己評価より公開を開始。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

① 課題

- ・学校の施設を利用し、一部企業には活動の場を提供しているが、地域や一般の方に向けた講座が少ない。

② 今後の改善方策

- ・地域貢献につながる公開講座の実施を検討。
- ・平成 29 年度よりキッズ空手教室を運営しており、周辺地域の方に認知・周知を図ることで発展をさせていく。

③ 特記事項

- ・学校の実技実習施設は、地域の方の水害時の避難場所に指定いただいている。
- ・ボランティア活動の依頼は多く、教育成果を発揮するいい機会となっている。また、生徒の活動実績が就職活動の際に成果として現れている。
- ・西中島地区のボランティア活動に積極的に参加し、地域貢献活動を実施している。
- ・ボランティアを授業単位として認定する「サービスマーケティング演習」を導入した。
- ・本校実技施設を利用して生徒によるフィットネスクラブ運営を行う「総合演習」授業を実施している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・スポーツクラブ運営を生徒が運営するのは非常に効果的な学習の機会になるので、非常に良い取り組みと感じる。今後も実施していただきたい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本評価の結果を踏まえ、学校としてさらに良い学校づくりに努めていきたい。そのために頂いたヒントや事案を前向きに取り入れていき、学校運営に生かしていきたい。